

【須賀川市】
校務DX計画

本市では現在、主に以下の4点から校務DXに向けた取組を推進している。

- 1 福島県が県域でドメイン運用する Google Workspace (汎用クラウドプラットフォーム) である FCS (ふくしまクラウドサービス) の活用
 - (1) クラウドを介したデータ資産の共有・共同編集
 - (2) Web 会議システムによる会議や研修の実施
 - (3) 生成 AI の校務への利活用 (主に文書や教材のたたき台作成、アンケート集計等)
- 2 国の GIGA スクール構想に基づき本市が整備した 1 人 1 台端末と高速通信ネットワークの活用
 - (1) Google Classroom を活用した学習成果の蓄積や評価の効率化
 - (2) 指導者用デジタル教科書や学習者用デジタル教科書の活用による教材作成の省力化
 - (3) Google Form を活用した各種アンケートの実施による集計作業の省力化
 - (4) 「QUテスト」の Web 版移行による検査結果の早期把握と効率的な共有
- 3 校務支援システムの活用
 - (1) 児童生徒の学籍情報や成績情報の安全で効率的な管理及びそれに伴う紙媒体の簿冊の削減
 - (2) QR コードによる勤怠管理
- 4 健康観察・保護者連絡アプリの活用
 - (1) 出欠連絡等による電話の混雑解消
 - (2) 緊急連絡の即時配信

これらの取組を継続しつつ、「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組を次のとおり定める。

1 FAX や押印の制度・慣行の見直しとペーパーレス化の推進

自己点検の結果では、7 割以上の学校で「FAX の利用が例外的に必要と考えられる業務」以外に FAX を使用していると回答している。また、9 割以上の学校で「業務で押印が必要な書類がある」と回答している。まずは教育委員会が学校に提出を求める文書で改善の余地がないか点検し、可能な個所から業務の効率化を図る。また、学校内の業務においては、すでに一部で実施されている職員会議等の資料のペーパーレス化を推進するとともに、保

護者宛文書を健康観察・保護者連絡アプリで配信するなどの取組も推進する。併せて、文書收受や決裁事務の電子化の方策に関する調査研究を進めていく。なお、これらの取組はあくまでも業務効率化の手段であり目的ではないので、学校の実態やニーズを踏まえながら丁寧に検討していく。

2 ゼロトラストセキュリティによる校内ネットワークの統合に向けた体制整備

現在、本市立学校では校務系と学習系の2つの分離したネットワークを利用しているが、文部科学省が取りまとめた「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を基に、ゼロトラストセキュリティによるネットワークの統合と端末の一元化に向けた体制整備を行う。

3 須賀川市立学校情報セキュリティポリシーの改訂

本市立学校の実態に基づき情報セキュリティポリシーを策定し、情報セキュリティ委員会で検討を重ねながら改訂・運用している。今後は、ゼロトラストセキュリティによるネットワークシステムへの移行に伴うクラウド活用やロケーションフリーを前提とした働き方に対応した改訂が必要となるため、情報セキュリティ委員会及び教育委員会事務局により調査研究を進めていく。

4 校務における生成 AI の活用

文部科学省が示した「初等中等段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」を遵守した上で、校務での利活用を推進する。

5 次世代型校務支援システムの導入

福島県において、「パブリッククラウド上で運用できる次世代校務支援システム」を県内市町村とともに導入するための協議を令和7年度までに開始することから、県や他市町村の動向を注視するとともに調査研究を進める。